

## 道立高等学校の生徒の北海道大学への派遣・交流事業

### 1. 目的

道立高等学校の生徒を北海道大学に派遣し、同大学の留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

### 2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学

### 3. 実施時期

令和2年(2020年)10月12日(月)～14日(水)

### 4. 実施場所

北海道大学 高等教育研修センター、学術交流会館ほか

### 5. 参加者

全道の道立高等学校20校から24名(1年生10名、2年14名)が参加

### 6. 日程

	時間	内容
1日目	13:30～14:00	開会式・オリエンテーション・自己紹介
	14:00～15:00	北海道大学キャンパスツアー
	15:15～16:45	ワークショップ1
	16:45～17:00	リフレクション
2日目	9:15～10:15	大学院生による留学経験等の講演1
	10:30～11:30	留学生によるプレゼンテーション・バーチャル研究室ツアー1
	11:30～12:30	昼食
	12:30～13:00	エッセイライティング
	13:00～14:30	大学の講義体験
	14:45～16:45	ワークショップ2
	16:45～17:00	リフレクション
3日目	8:45～9:25	大学院生による留学経験等の講演2
	9:30～11:00	留学生によるプレゼンテーション・バーチャル研究室ツアー2
	11:00～11:30	参加者によるスピーチ
	11:10～12:00	リフレクション・閉会式

## 事業の様子

### 1日目・10月12日（月）

開会式では、主催者である北海道大学・北海道教育委員会から、挨拶がありました。オリエンテーションでは、プログラムの目的や参加上の諸注意の説明があり、その後4人1組のグループとなって自己紹介を行いました。

キャンパスツアーでは、各グループに北大の留学生が1名加わり、小雨の中、英語でコミュニケーションを取りながら、運営者から出題されたミッションに取り組みました。

参加者からは「北海道大学の構内を留学生と協力して、英語力を高めながら探検するのが楽しかった。」「実際にキャンパスを見て回ることができ、大学選びの参考になった。」などの感想がありました。



【キャンパスツアー】



【ワークショップ1でのプレゼン】

りました。

続く、ワークショップ1では、北海道登別明日中等教育学校の島田教諭を講師に迎え、参加者の英語力向上を目的とした言語活動を行いました。生徒は互いに英語でコミュニケーションを図りながら課題に取り組み、短時間でプレゼンテーションを準備し発表しました。

参加した生徒からは「楽しみながら英語を学べた。グループの人と意見を共有したり、仲を深めたりしてとても有意義だった。」

「英語で説明したり、ストーリーを考えたりと、スピーキングのよい練習ができた。」などの感想がありました。

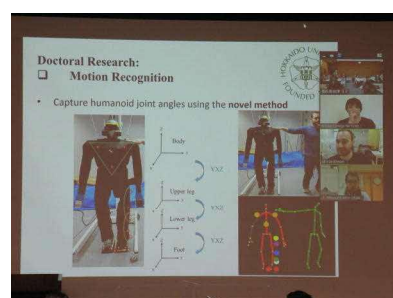
### 2日目・10月13日（火）

大学院生による留学経験等の講演1では、北海道大学農学院の渡辺さんが講演を行いました。渡辺さんは「留学のすゝめ」と題し、10歳から18歳までの中国留学、18歳から22歳までのカナダ留学の経験を、英語と日本語で話してくれました。大いに刺激を受けた参加者は、休憩時間になっても、講師の回りに集まり、留学について質問する姿が見られました。

参加者からは「講師の話聞いて、過去の自分に後悔した。もっとたくさん挑戦してくれば良かった。」「留学について詳しいことが聞けた。自分の人生を考え直す1つのきっかけになった。」などの感想がありました。



【留学経験者による講演1】



【留学生によるプレゼン】

留学生によるプレゼン・バーチャル研究室ツアー1では、全体会場と研究室をオンラインでつなぎ、北大の繁富特任准教授による進行で、3人の留学生による研究内容のプレゼン及び質疑応答を行いました。

参加者からは「難しい英語もあり、なかなか大変だったが、留学生の生の声を聞ける機会はそう多くはないので、とてもためになった。」などの感想がありました。

大学の講義体験では、北大の山下教授が、普段は留学生向けに行っている授業を、参加した高校生向けに行いました。「外国語としての関西弁」と題した、言語学的な視点から日本語の方言を考える授業を通して、参加者は留学生と共に授業を楽しみ、これまで意識しなかった言語習得における音声の重要性を再認識することができました。

参加者からは「普段使っている日本語のことを実は全然知らないということに気付いて驚いた。方言を外国語として捉えるという発想がユニークだと感じた。」「自分自身、日本語教師に興味があるが、初めて日本語の授業を受けてみて、日本語について考えることがとても面白かった。」などの感想がありました。



【山下教授による授業】

ワークショップ2では、在札幌米国総領事館の牛丸補佐官が、「留学とキャリア」というテーマで、クイズ形式で大使館の役割等を説明した後、グループディスカッションを行いました。講師から提示された「将来、英語を何に使いたいのか」という問いを受けて、参加者は、なぜ自分は英語力を向上させたいのかを改めて考えて、自分の意見を発表しました。

参加者からは「講師からとても興味深い話を聞くことができたし、領事館について興味を持った。」「外国に行ってトラブルがあったときに役立つ知識をたくさん知ることができた。英語を学習する目的を再確認することができた。」などの感想がありました。



【牛丸補佐官によるワークショップ】

### 3日目・10月14日（水）

大学院生による留学経験等の講演2では、「ほっかいどう未来チャレンジ基金第3期生」である北海道大学情報科学院の有働さんが、ソフトウェア開発を学ぶため、フィンランドのオウル大学に留学した経験について、講演を行いました。

参加者からは、「講師はすごく経験豊富で、留学したいという気持ちがさらに強くなった。」「主体性や自主性の大切さを聞き、これからたくさんの方にチャレンジしようと思った。」などの感想がありました。



【留学経験者による講演2】

留学生によるプレゼン・バーチャル研究室ツアー2では、前日に引き続き、北大の繁富特任准教授が進行役となり、留学生6名によるプレゼンテーションを行いました。プレゼン後、参加者は、関心を持った留学生の研究についてさらに詳しい内容を聞くため、留学生の研究室とZoomをつないだ小部屋に分かれ、質疑応答を行いました。

参加者からは「1回目のツアーではあまり話せなかったが、2回目は結構話すことができた。」「自分の興味のある分野の話を知ることができた。英語で研究内容を聞くことは大変だったが、英語力の向上になった。」などの感想がありました。



【留学生によるプレゼン】

参加者によるスピーチでは、プログラムに参加した感想と今後の抱負を1分間でスピーチしました。参加者からは「3日間をともに過ごした仲間たちに自分のスピーチを発表できてよかったし、みんなのスピーチも聞けて良かった。」「みんなのスピーチを聞いて、自分の英語学習のモチベーションが高まった。スピーチは緊張したが、良い経験だった。」などの感想がありました。

プログラムの締めくくりである閉会式では、参加者に対し、修了証の授与などを行いました。

プログラム全体を振り返って、参加者からは「この3日間でミスを恐れずに英語を話すことができ、自分の中で成長した部分だと感じた。どのプログラムもとても面白く、もっともっと英語が話せるようになりたいと思った。」「本当に自分の考え方が変わった。外国の大学へ行きたいという考えも強くなった。この経験を無駄にしないよう、これからも自分のスキルを向上させたい。」「初日はあまり話せなくて不安だったが、2日目が終わる頃には「え!?もう終わるの?」という気持ちになった。コミュニケーションスキルだけではなく、留学に対する考え方やこれからのについてもレッスンしてくれて、身に付いたのは英語力だけではない気がした。」などの感想がありました。

プログラムへの参加を通して、参加者は、英語力の向上や大学の授業等についての理解の深まりを大いに実感することができました。また、「海外留学」という同じ目標をもった仲間や実際に留学を経験した先輩方との出会いを通して、改めて海外留学に対する意欲を高めるとともに、自らの進路実現に向けて決意を新たにしていました。



【修了証の授与】



【閉会式後の記念撮影】